

特別支援学校小学部における音楽教材の工夫と改善

附属特別支援学校：宮井仁美 清水祐野 今井典子 小林史
和歌山大学教育学部：菅道子（研究代表） 上野智子

1. はじめに（共同研究の趣旨と経過）

附属特別支援学校小学部の音楽は、週に2時間設定され、4つの観点（歌唱、器楽、身体表現、鑑賞）を含む内容で構成されている。授業は、小学部1年生から6年生までの全児童13名を対象としている。生活年齢の幅が大きく、興味や関心を持っている事柄には違いがある。小学部では、より「やってみたい」という気持ち（意欲）が高まる中で、友だちと表現する楽しさを味わいながら無理なく基礎技能を習得していきけるような授業展開を考えていくことが研究課題となっている。

そこで、本共同研究では、児童の実態を把握する小学部教員と音楽科教育の立場から授業実践を見る大学教員とで連携し、平成24年度から共同研究としてよりよい教材づくり・授業づくりを模索してきている。

研究の経過としては、下記の授業実践に結びつけるために、2019年6月10日（月）に大学教員が授業を参観し、カンファレンスを行った。2019年11月11日（月）に今後の授業の方向性について再びカンファレンスを行った。

2. 研究の目的

小学部教員と大学教員が共同で授業について検討し、「音楽」の授業における教材の工夫と改善を図る。

3. 課題に関して～授業改善にむけての大学教員とのカンファレンスより～

11月11日（月）のカンファレンスでは、授業で活動名を提示するのではなく、内容（歌おう、楽器をならそう、からだで表現しよう等）提示する方が、やることと、狙いがわかりやすいと考え、その中でも「歌おう」では「綺麗な声で歌ってみよう」等の「めあて」を共有することが大切であるということを通理解した。

また、1年～6年まで音階とリズムを系統的に学習できるように、指導内容とねらいを選定することが大事だと考えた。音階の指導に当たってはハンドサイン（手の動きで音の高さ、リズム、音楽の表情などを示して階名唱を効率よく導く方法）によって感覚的に音の高低や特性を学んでいけるようにと考え、昨年度から取り組んでいる。カンファレンスでは「わらべうたの音階構造表」（2019年8月実施の日本コダーイ協会全国大会「第2分科会 学校教育におけるコダーイアプローチ」の資料もとに菅が作成）をもとにハンドサインを使ったわらべうた遊びのワークも行い理解を深めた。リズムに関しては四分音符、八分音符、四分休符を組み合わせ、パート別に分けてリズムを変えることにした。授業でも取り入れたように、ラ、ソで構成される2音のこぼがけ

（○○ちゃん・あそびましょ、一休さん等）や2音歌（どっちゃんかっちゃん、このここのこ等）からはじめて、手遊び、身体遊びの活動の中で一音ずつ音を増やすと、ハンドサインも身に付けやすいと考えられた。

「わらべうたの音階構造表」-こぼを歌うと一定の節がつく- ミソラシレ版
2019.11 和附特 連携事業 共同勉強会用

	2音歌	3音歌	4音歌	5音歌	
	①	②	③	④	⑤
レ					レ
シ			シ	シ	シ
ラ	終止音	ラ	ラ	ラ	ラ
ソ		ソ	ソ	ソ	ソ
ミ			ミ	ミ	ミ

作図参考：尾見敦子 +

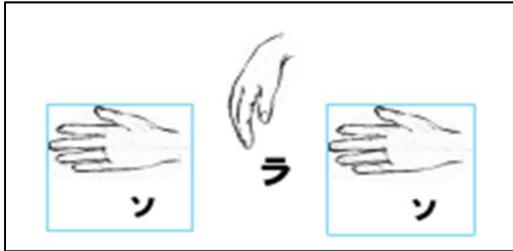
①	唱え歌	
①	2音歌	めんめんすーすー、じーじーばー、東京（郡）日本橋、十五夜さんのもちつきに、ちゅちゅこっこ、どっちゃんかっちゃん、こぼはてっくび、べんけいが、からすかずのこ、あしあしあひる、いち、にい、さん……
②	3音歌	どっちゃんかっちゃん、このこ このこ、ちゅちゅこっこ、どっちどっち、からすかずのこ、どれにしようかな、○○ちゃん、あそびましょ
③	3音歌	おちゃをのみに、くまさん くまさん、おてぶしてぶし、もういいかい、チャルメラ、もういいかい、なべなべそこぬけ
④	4音歌	にぎりばっちり、なごかいとほかい、どんどのみずは、たまりやたまりや、てるてるぼうずてるぼうず、ちゃちゃつばつば
⑤	5音歌	ちよつち ちよつち、ろーそくのしんまい、あんたがたどこさ、馬はとしとし、ひらいたひらいた

本資料は企画代表：尾見敦子「第2分科会 学校教育におけるコダーイアプローチ」（日本コダーイ協会全国大会2019in東京）を参考にして作成したものである。

4. 授業実践～

(1) 12月10日(火) 音階の学習《ハンドサインでわらべうた》——ハンドサインで音の特徴を学習する一

昨年度「なべなべそこぬけ」とCMで耳にする機会も多かった「一休さん」をとりあげ、ソとラの音を中心にハンドサインの練習を行った。今年度は「このこ どのこ」を1音下げた再びソとラのハンドサインの練習を行った。「このこ どのこ」を初めて聞いた児童の中には「一休さんや!」と言う児童もおり、少しずつではあるが音の感覚が育ちつつあることを感じとることができた。歌詞を「このおと どのおと かつちんこ?」と変え、ハンドサイン(ソ・ラ)も一緒に行いながら歌った。「かつちんこ?」の後には児童に見えないように楽器を鳴らし、「今の楽器何かな?」とクイズ形式にすることで、児童たちの「聴く」という意識を高めることができた。



ハンドサインと歌を一緒に行う前に歌だけで数回「このこ、どのこ～」を行っていたので、歌いながらハンドサインを一緒に行う際も比較的スムーズに行うことができた。また、ハンドサインの紹介をした時に、他の音階のハンドサインにも興味を持ち、イラストを見ながら自分なりに「ドレミ～」の指の形をする児童もいた。

(2) 12月16日(月) ボディパーカッションでリズムを表現しよう

リズムに関しては年間を通してボディパーカッションを取り入れている。ボディパーカッションとは、体全体を打楽器(パーカッション)にして、リズムを奏でる音楽である。低学年(1、2年生)、中学年(3、4年生)、高学年(5、6年生)のパートに分けて、リズムを変えて取り組んでいる。最初は簡単なリズムから始めたが、継続して取り組むことで、身体で四分音符と八分音符のリズムの違いを感じとることができつつある。最初は耳で聴いてリズムを覚えるために、「とーすん とーすん とーとー とーすん」と言いながらリズムをとったり、教師がタンバリンを叩いたりしていたが、継続して行うことで、自分のパートのリズムを覚えてリズムを刻むことのできる児童が大半となった。1学期から2学期にかけてリズムの一部分を変えて難しいリズムにも挑戦している。全員のパートでは、お腹と太ももを叩き、最後にポーズを取りながら「やーっ!」と掛け声をかけるなど、身体全体を使って表現することができた。最後には上手にリズムを刻めた児童を「きらりさん」として、みんなの前で発

	とーすん とーすん とーとー とーすん
小低パート	
小中パート	
小高パート	
全員	

↓

小低パート	
小中パート	
小高パート	
全員	

表してもらった。友だちのリズムや自分のパートのリズムを確認できたり、友だちの頑張っている姿を見ることができたり、賞賛の声をもらうことで児童たちが自信をつけ励みになっていると思われる。また、学年が上がるほどリズムが難しくなるようにすることで、高学年への憧れや「やってみたい」という意欲の高まりが見られた。



5. まとめ

「このおと どのおと かっちゃんこ」では、児童たちが興味をもち、取り組むことができたおかげでスムーズにハンドサインの「ソ」と「ラ」を習得することができたと考えられる。その際に「ラ」の音では「おばけ〜」や「ソ」では「まっすぐ〜」など特徴的な言葉と一緒にハンドサインを行うことで、児童たちの印象に残ったと考えられる。今度は「わらべうた」を通し、他のハンドサインの学習にも取り組んでいきたい。

リズムにおいては、子どもたちの実態に合ったリズムの学習を行ったことで発達段階に合った活動ができ、子どもたちも生き生きと活動することができた。今後はさらに表現のバリエーションを広げるために、身体のいろいろな部分を使ったり、難しいリズムにも取り組んでいきたい。



6. 引用・参考文献

- ・佐藤 美代子（編）・近藤 理恵（絵）（2001、2004、2005）

『なにしてあそぶ？わらべうた 目あそび・手あそび・足あそび』〈Part1、2、3〉草土文化

- ・2019年8月実施の日本コダーイ協会全国大会 in 東京（2019.8.24-8.25 国立音楽大学）「第2分科会 学校教育におけるコダーイアプローチ」企画代表：尾見敦子・当日配布資料